



飯能商工会議所



The HANNO Chamber of Commerce and Industry.

地域資源である西川材の 多様な活用方法を示す

西川材とは埼玉県西南部、入間川・高麗川・越辺川の流域を産地とする木材で、この地方から筏により江戸へと流送していたことから「江戸の西の方の川からくる材」＝「西川材」と呼ばれるようになりました。強度が高く肌目が美しいという特徴を持ち、古くは江戸の大火や関東大震災後の復興材として重用されたという歴史ある木材です。近年は首都圏に近い産地でありながらも十分に認知されず、優良材を供給する能力を十分に活かしきれていないという課題がありました。

飯能商工会議所は、飯能市や西川地区木材業組合との連携により、構造材は全て、地域資源である西川材のスギ・ヒノキの認証林材を使用し建設されました。また、階段や手摺、室内建具や家具など、目に見え手に触れる部分にも製材時に出た端材や西川材の幅はぎ材を採用することで、西川材の多様な活用方法を示し、西川材のショールームとしての機能が果たせるよう計画しました。地域資源としての西川材の認知を広げ、西川材の利用促進と林業の活性化を促すことで、地産地消と地域循環の実現を目指しました。実際に木材業組合より供給された木材はどれも美しく、完成した構造材現しの先進的な木架構は「地域の誇り」と表現するにふさわしい風景を作り出しています。

また本建物は、西川材のスギ・ヒノキの製材と CLT パネルを適材適所に組み合わせ、軸組工法を主体とした新旧の木質構造技術を融合した先進的な構造計画となっており、平成 30 年度補正 CLT 建築実証支援事業として採択され建設されました。西川材による CLT パネルの製作、またその CLT パネルと軸組工法の融合を実現した本建物が、中大規模の事務所建物等の木造化を推進し、「地域木材利用を促進する地産地消型のサステナブルな建物」として、今後の好例となることを期待しています。



西川材の製材や中ハギ材を用いた造作家具

撮影：Koizumi Studio



西川材スギの製材の強さと美しさを生かした CLT 折版構造と、その奥に見える組子格子耐力壁

撮影：傍島利浩



建具工事で制作を行った組子格子耐力壁は壁倍率9倍相当の高耐力を実証実験で確認している。

先進的な構造架構を 地元の技術と人材で造る

本建物は西川材の特性である強さと美しさを活かし、地元の大工技術や加工場を最大限活用した地産地消型のサステナブルな木造建築となるよう計画しました。大断面集成材のように特殊な金物や加工技術に頼るばかりでは、日本の大工技術の継承が行われず、また伝統技術に頼るばかりでは、職人不足や工期短縮などの今日的な問題に答えることは出来ません。日本古来の軸組工法と現代の構造解析や新しい木質構造技術との融合により独創的な木造建築をつくることで、日本の木造技術のさらなる発展を促し、日本の財産である大工技術や木材の利用を促進する先駆的なモデルとなるよう計画しました。独創的で魅力的な木架構は、室内のみならず通りを歩く人々からも感じられるよう、開放的かつ耐震性の高い構造計画としました。まさに強く美しい西川材のショールームと呼ぶにふさわしい木の空間は、地元の山、製材・加工業者、地元大工や職人皆の技術や熱意でもって実現しました。地元の材が地元の人を結んだと感じます。地域の誇りとしてこの建物が末永く愛されることを期待しています。

撮影：傍島利浩



厚さ72mmと90mmのCLT折版構造の床と柱からなる大会議室。



東棟2階の支点桁架構。6mの西川材を用いた相持ち構造とし、スパン10mの屋根を支える。

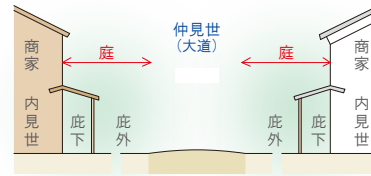
4つのニワでまちに開く

かつて飯能の大通りには、商家と大通りとの間に設けられた「庭」とよばれる場が、公と私を繋ぐ”半公共的な場（共＝コモン）”として存在していました。この「庭」の連続体はコミュニティを活性化する重要な意味を持っていました。



明治44年の大通りの様子

庭 = 近隣からやってくる
商人に貸した場所 = 半公共



庭のイメージ

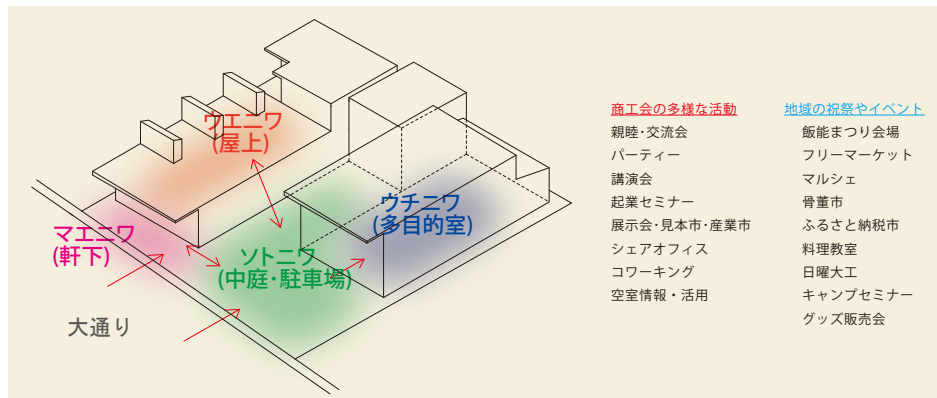
我々は町の賑わいを取り戻すべく、「庭」を継承した新しい4つの「ニワ」を敷地内に計画しました。

ソトニワ — 緑豊かな中庭とイベント時に利用可能な駐車場スペース

マエニワ — バスの待合にもなる軒下

ウチニワ — 多目的に利用可能な大会議室

ウエニワ — 地域の祝祭やイベント時に開放する屋上



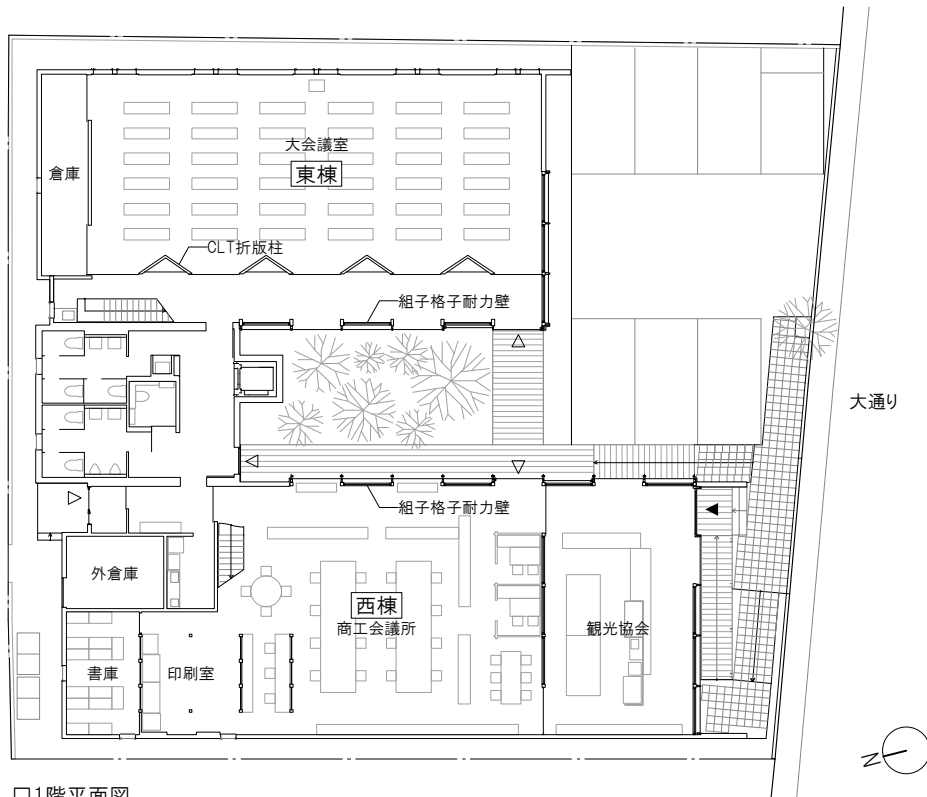
商工会議所は地域商工業振興の拠点、観光振興の拠点、西川材振興の拠点、交流とコミュニティの拠点として、多様な目的で訪れる人々が主体的に町の活性化に関わっていける仕組みが建築計画上也重要であると考えました。庭を介してまちに開いた建物とするとともに、主要機能をすべて地上階に配置して相互に開いた平面計画とすることで、様々な活動が互いに認知され新たな繋がりが活動のきっかけが生まれることを期待しています。



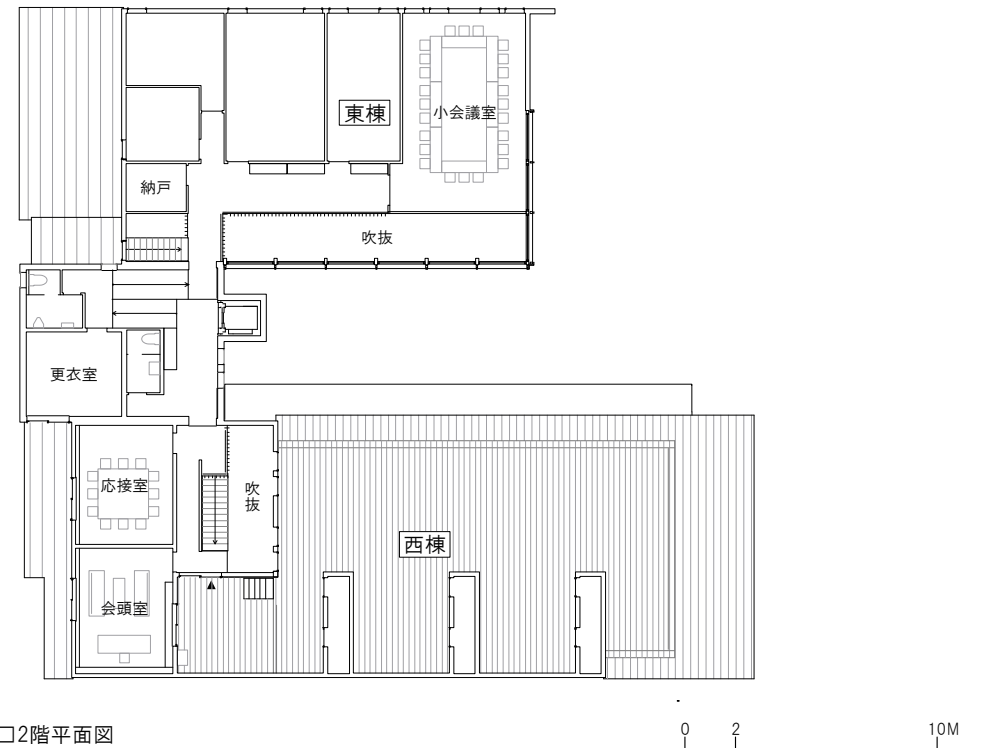
建物南側、大通り飯能商工会議所をみる。



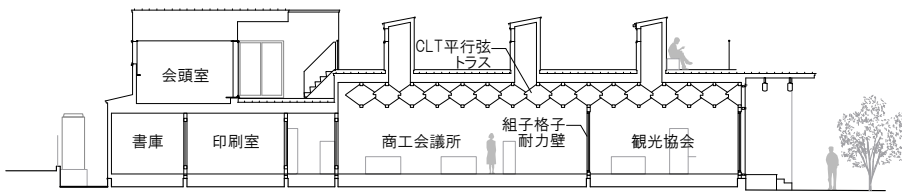
屋上、地域の催事やイベント時に開放する。



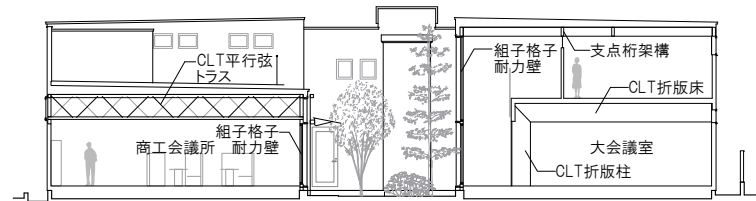
□1階平面図



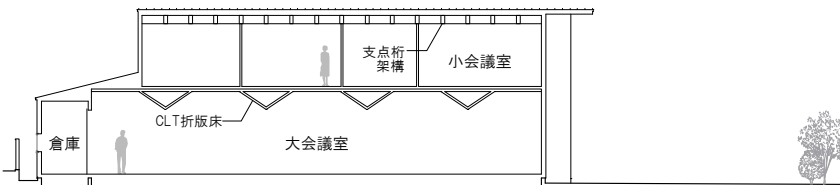
□2階平面図



□西棟 南北断面図



□東西断面図



□東棟 南北断面図

□計画概要

工事名称	飯能商工会議所会館建設工事	用途	事務所
都市計画区域/用途地域	市街化区域/商業地域	敷地面積	904.29㎡
地域地区/建築協定	法22条区域/一	構造/階数	木造/地上2階
指定建蔽率/指定容積率	80%/400%	最高高さ/軒高さ	7,567mm/6,737mm
斜線制限/高さ制限	道路:1×1.5(20m) 隣地:1×2.5(31m)	各階床面積	1階:507.46㎡ / 2階:238.68㎡
北側:一日影:一 / 高度地区:一		建築面積/容積対象床面積	544.76㎡ / 743.45㎡
条例等その他制限	一(飯能市開発行為に該当しない)	建蔽率/容積率	60.24%/82.21%
建築主	飯能商工会議所 会頭/矢島巖	建設	細田建設株式会社
設計監理	[統括/意匠] 野沢正光建築工房 / [構造] ホルツストラ / [設備] 設備計画 / [家具/サイン] コイズミスタジオ		